

きよすじょうかまち
清洲城下町遺跡(本発掘調査B)

所在地 清須市一場・朝日城屋敷地内
(北緯35度13分07秒 東経136度50分39秒)

調査理由 橋梁整備工事総合治水対策特定河川工事

調査期間 令和3年12月～令和4年3月

調査面積 650㎡

担当者 堀木真美子・蔭山誠一

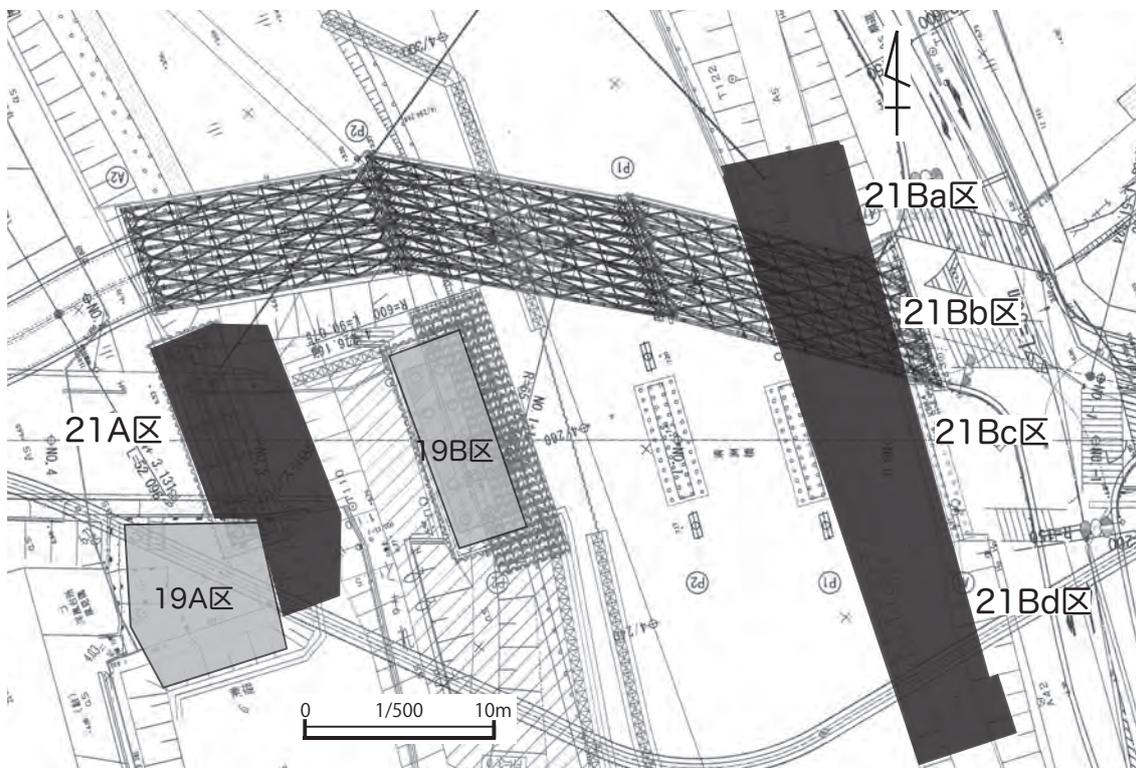


調査地点(1/2.5万「清洲」)

調査の経過 調査は、愛知県建設局道路建設課による橋梁整備工事総合治水対策特定河川工事(主)名古屋祖父江線に関わる清洲橋施工事業に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じて委託事業として実施した。調査区は五条川兩岸の河川敷で清洲橋の南北にある。調査面積は650㎡で、五条川右岸にある21A区、五条川左岸で、北から21Ba区～21Bd区として調査した。

立地と環境 清洲城下町遺跡は五条川中流域に形成された自然堤防と後背湿地上に立地する古代から近世にかけての複合遺跡である。遺跡の中央には、名古屋方面の南南東から北北西にのびる美濃街道がはしっており、美濃街道と五条川が交差する北側に清須城の本丸が想定されている。

調査の概要 今回の調査では、古代の自然流路1条(004NR)と戦国時代の溝4条を確認できた。調査を実施した21B区は五条川左岸の中堀の内側にあたる地点で、主に城下町後期の武家屋敷地などを構成する区画の一部かと思われる。(蔭山誠一)



調査区配置図(S=1/500)



調査区(Ba区) 遠景(北から)



Ba区全 景(南東から)



Bb区全 景(北から)



Bc区全 景(北から)



Bc区 020SD・021SD(北東から)